

- 問1 日本列島の地理的区分において、中国地方の日本海側に位置する島根県にあり、戦国時代に大名の保護を受けた商人たちによって大規模な開発が進められた銀山はどれですか。 (2023年 岐阜県公立入試 類似)
1. 足尾銅山                      2. 佐渡金山                      3. 石見銀山                      4. 生野銀山
- 問2 戦国時代に各地を支配した戦国大名の多くは、「下剋上」という風潮の中で台頭しました。この時代における「下剋上」の説明として、当時の社会状況をふまえた最も適切なものはどれですか。 (2016年 静岡県公立入試 類似)
1. 朝廷の権威を背景とした下級武士が、実力行使によって幕府の政治を批判し、地位を向上させた。      2. 幕府から任命された守護が、自らの実力を高めて隣国を吸収し、支配権を世襲していった。      3. 下の者が実力で上の者に打ち勝って地位を奪い、新たな領主として領国支配を広げていった。      4. 農民たちが宗教的な団結を強めることで、武士の支配を実力で排除して自治を行った。
- 問3 戦国時代、各地の有力な戦国大名が自らの領国内の秩序を維持し、家臣や領民を統制するために独自に制定した法律を何といいますか。 (2024年 奈良県公立入試 類似)
1. 永仁の徳政令                      2. 公事方御定書                      3. 分国法                      4. 墾田永年私財法
- 問4 戦国大名が領国内の統制を図るために定めた「分国法」の性質について説明したものととして、正しいものはどれですか。 (2024年 東京都公立入試 類似)
1. 豊臣秀吉が全国を統一した後、農民から武器を取り上げるために発令したものであった。      2. 源頼朝が全国の守護や地頭に対して、公家との紛争を公平に裁くために制定したものであった。      3. 日本で最初の本格的な法律であり、天皇を中心とした律令国家の仕組みを定めたものであった。      4. 大名が自分の領国内にのみ適用した独自の法律であり、地域の実情に応じた内容であった。
- 問5 室町時代から戦国時代にかけて見られた、実力のある下の者が上の者を倒し、その地位を奪い取るという社会的な風潮を何と呼びますか。 (2018年 秋田県公立入試 類似)
1. 下請け                      2. 下剋上                      3. 惣村                      4. 寄合
- 問6 島根県に位置し、戦国時代から江戸時代にかけて大量の銀を産出した日本最大級の銀山で、2007年に世界文化遺産に登録された場所を次の中から選びなさい。 (2016年 鳥取県公立入試 類似)
1. 石見銀山                      2. 生野銀山                      3. 佐渡金山                      4. 別子銅山
- 問7 戦国大名は、自らの居城の周辺に家臣や商工業者を強制的に呼び寄せて住ませ、領国支配の拠点となる町を築きました。このような町の形態を何と呼びますか。 (2016年 千葉県公立入試 類似)
1. 門前町                      2. 城下町                      3. 港町                      4. 宿場町
- 問8 16世紀のヨーロッパでは、既存の教会のあり方を批判する動きから宗教改革が起こり、新教とも呼ばれるプロテスタントが誕生しました。この宗教的な対立が、当時のポルトガルやスペインといったカトリック諸国の海外進出にどのような影響を与えたか、最も適切な説明を選びなさい。 (2021年 愛知県公立入試 類似)
1. プロテスタント諸国が海外進出を独占したため、カトリック諸国は布教よりも国内の防衛を優先させた。      2. カトリックとプロテスタントの両勢力が協力体制を築き、イスラム教圏を回避するための新しい航路を開拓した。      3. プロテスタントの勢力拡大に直面したカトリック側が、失った勢力を回復するために海外での布教活動を強化した。      4. 宗教改革によってキリスト教の権威が失墜したため、ヨーロッパ諸国は布教を目的とした海外進出を完全に停止した。
- 問9 戦国大名が制定した「分国法」には、家臣同士が私的な理由で争うことを厳しく禁じる「喧嘩両成敗」の規定が多く含まれています。このような規定が多くのだ名によって導入された背景として、最も適切な理由はどれですか。 (2023年 栃木県公立入試 類似)
1. 家臣たちの不満を解消するために、すべての裁判を幕府の裁定に委ねる必要があったから。      2. 海外から伝来したキリスト教の教えに基づき、平和な社会を築くことが求められたから。      3. 家臣同士の私闘による戦力の消耗を防ぎ、大名を中心とした組織的な団結を固めるため。      4. 貨幣経済が浸透し、武士が戦うことよりも商業に従事することを推奨したから。
- 問10 平安時代中期から安土桃山時代にかけて、武士が政治の主導権を握っていく過程で起きた次の4つの出来事を、発生した時期の古い順に並べたものとして正しい説明を選びなさい。 1. 平将門が関東で反乱を起こし、「新皇」と称した。 2. 平清盛が武士として初めて最高官職である太政大臣に就任した。 3. 北条泰時が、御家人の裁判の基準を明確にするため御成敗式目を制定した。 4. 織田信長が、室町幕府の将軍であった足利義昭を京都から追放した。 (2015年 岡山県公立入試 類似)
1. 「平将門の乱」→「平清盛の太政大臣就任」→「織田信長による足利義昭の追放」→「御成敗式目の制定」      2. 「平将門の乱」→「御成敗式目の制定」→「平清盛の太政大臣就任」→「織田信長による足利義昭の追放」      3. 「平清盛の太政大臣就任」→「平将門の乱」→「御成敗式目の制定」→「織田信長による足利義昭の追放」      4. 「平将門の乱」→「平清盛の太政大臣就任」→「御成敗式目の制定」→「織田信長による足利義昭の追放」
- 問11 武田信玄が定めた法の中に、「喧嘩をした者は、いかなる理由によるものであっても、双方ともに処罰する」という、いわゆる『喧嘩両成敗』の規定が見られる。戦国大名がこのような厳しい規定を設けた主な目的として、最も適切なものはどれか。 (2021年 沖縄県公立入試 類似)
1. 家臣同士が私的な武力行使をすることを禁じ、大名の裁判権を確立して領国内の紛争を鎮めるため。      2. 朝廷から与えられた守護としての権限を、隣国の領主に対しても示すことで領土を拡大するため。      3. 農村における生産性を向上させるために、武士が農業に専念できる環境を整えるため。      4. キリスト教の博愛の精神を取り入れることで、家臣同士の平穏な共同体をつくるため。
- 問12 1543年に種子島へ鉄砲が伝来したことは、その後の戦国時代の戦い方や社会にどのような変化をもたらしましたか。最も適切な説明を選んでください。 (2024年 大阪府公立入試 類似)
1. 鉄砲の製造に高度な技術が必要だったため、戦国大名同士の争いが一時的に停止した      2. 弓矢や刀剣が全く使われなくなり、すべての兵士が鉄砲のみを装備して戦うようになった      3. 騎馬武者による一騎打ちが戦いの主流となり、個人の武勇がより重視されるようになった      4. 足軽による集団戦法が普及し、強力な攻撃を防ぐために城の造りがより堅固になった